

北陸学院創立 125 周年にあたって

学院長 楠 本 史 郎

2010 年 9 月 9 日に、北陸学院は創立 125 周年を迎えました。11 日に感謝礼拝と記念式典をおこない、また各部局の園児・児童・生徒・学生が、それぞれの始まりを劇にして北陸学院物語を演じました。他に『北陸学院 125 年史』と『125 周年記念誌』の発行、記念講演会、5 回の記念オルガンコンサート、125 周年記念メサイア・コンサート、My Mission エッセイコンテストを実施しました。またこの機会に、学院に残されている貴重な歴史的資料などを整理、登録するとともに、1891 年建築のウィン館を改修し、歴史資料の展示・保管とともに、公開講座や、市民に開かれた学院の活動の場所として整備しました。

四つの源から湧き出した流れが合わさり、現在の北陸学院を形づくっています。

第一の源は、1885（明治 18）年の金沢女学校の創立です。米国長老教会から送られたメリー・ヘッセル宣教師の熱意によって開けられました。9 月 9 日の開校式で、ヘッセルは、石川県令の祝辞の後、次のように述べています。

「幼児を養育する婦人は世界を支配するという諺のあるとおり、国家にとって婦人の教育は男子同様に大切なものです。その教育には知育、体育、徳育が何れも必要であるとともに、生徒の宗教心を啓発し、これを涵養することもまた必要となさねばなりません」

堂々とキリスト教教育の基本を述べ、またそれを実践しました。

第二の源は、1886（明治 19）年に開校した英和小学校です。同じ米国長老教会のフランシナ・ポーター宣教師が開きました。ポーターは、当時の小学校就学率の低さを目の当たりにし、心を痛めました。児童たちが神と人に愛され、伸び伸び育つ学校を作りました。

第三の源は、同年に、やはりポーターによって開園した英和幼稚園です。幼児教育の大切さがまだ理解されていない時代に、幼な子にこそ、神の恵みと愛にもとづく教育が必要であると訴え、実践しました。

第四の源は、金沢女学校に先立つこと 2 年、1883（明治 16）年に開校した愛真学校という男子中学校です。北陸に伝道し、プロテスタント諸教会を建てた、やはり米国長老教会のトマス・ウィン宣教師が始めました。若者たちが集い、英語のほか、さまざまな科目を学びました。

しかし 1890 年代以降、明治政府はキリスト教教育に圧力をかけました。そのため、金沢女学校は北陸女学校と名前を変え、英和幼稚園はその附属幼稚園となりました。けれども愛真学校と英和小学校は耐えられず、それぞれ 1900 年、1903 年に廃校となってしまいました。

第二次大戦後、学校法人北陸学院が生まれました。北陸女学校は北陸学院中学校、高等学校となり、またさらに、北陸学院短期大学が誕生します。幼稚園は 2 園となり、現存する日本のキリスト教幼稚園のなかで、もっとも古い歴史を歩みつづけています。また 1961 年には、英和小学校を復活させたいという思いから、北陸学院小学校が「再興」されました。それでも長く、中学校以上は女子だけの学校でしたが、2008 年に北陸学院大学が開学すると同時に、すべての学校が男女共学となりました。これを、かつて廃校となった男子教育機関である愛真学校の復活と理解しています。

北陸学院は、幼稚園から小学校、中学校、高等学校、短期大学部と大学までがそろう、本州の日本海側で唯一のキリスト教総合学園になりました。全部局をとおした、19 年にわたる継続教育プログラム

を立て、教科ごとの北陸学院スタンダードとして確立しようと努めています。キリスト教精神を土台とし、愛と奉仕の心で園児、生徒、学生一人ひとりを育みます。教職員がそれぞれ研鑽を深め、学び、その成果をこの『研究紀要』に掲載することができるようになっています。

多くの宣教師や先輩の教職員、生徒たちが、学院を愛し、ひたむきに支えてきてくださいました。創立 125 周年にあたり、歴史に刻まれた深く強い志を思い、そしてそれらの方々を送ってくださった主なる神さまに感謝いたします。改めて、北陸地方にあるキリスト教学校として、神と社会に仕える建学の精神に立ち戻り、創立第 2 世紀を力強く歩んでいこうと、一同、決意を新たにしています。